

第5回万国津梁会議（令和3年度第1回） 議事メモ

日時：令和3年8月5日（木）10:00～12:00

場所：オンライン

参加者：別添のとおり

1 議題1 中間報告と令和3年度の方向性について

○ 事務局

「中間報告」、「令和3年度の方向性」について説明

○ 花牟礼委員

KPIを23万円にする場合、県民所得のイメージどんな感じになるか

P.8の競争力がある域外市場産業とは、どの産業が該当するのか？

○ 事務局

県民所得については、まだ試算していない。

観光関連産業では世界に通用する、情報関連産業は不利性が少なく、集積していることを活かす。農林、ものづくりについては品目や分野によって変わる。競争力が確保できそうな分野を見ていく

○ 花牟礼委員

域外への資金流出について。ザル経済、つまり、内地の企業にお金が出ているということが課題ということか？

○ 事務局

P.21にある。県内の需要に対して、県内生産の供給量が少ない。移入に頼っているので、財政移転への依存度が高い。

○ 星野委員

域外への流出を抑えるという文言は、計画経済に見え、閉鎖的経済を作ろうとしているように見える。これは、これまで議論してきた「健全な競争環境、自由で開かれた市場の確保」からは、逆行していないか。

見方を変えれば、生産性が高いものは、外から買う。つまり、活用しているということで、悪いことではない。企業にしても消費者にしても、一番安いものを買えばいい。その代わりに、質が高くて安いものを外に売ればいいと思う。

域外への資金流失を抑える、強制的に抑えにかかるといった誤解を招きかねない。

今の表現だと、投資したものを域外に出せないという感覚を持つかもしれないので、修正した方がいい。

観光需要の年間の平準化は、稼ぐ力を強化するために一番重要な事と信じている。所得は必ず上がる。そういう意味で、やんばると西表の世界自然遺産登録は、ビーチリゾートのイメージから離れるきっかけになる。文化だけではなく、世界自然遺産は年間平準化に貢献する可能性がある。

○ 事務局

資金の流出を抑えるというのは、例えば、石垣は、大勢の観光客がきているが、地元で落ちていないという調査結果が出ている。経済循環を高める、地元の人が稼げるようにしたいという趣旨

○ 花牟礼委員

星野委員と同意見。資金流出を抑えるという表現は、誤解を招きやすい。公共工事で、内地のゼネコンがとっているとか、問題視されているが、外の企業はどんどん入れた方がいい、中国、アジアはそれによって発展している。ハレクラニも外の企業だが、雇用を生んで、支出をしている。県外の企業が活動し、外にお金が落ちることについて、本当に県にとってマイナスなのかどうか、県で考え方を統一した方がいい。外の企業を入れてオープンに競争を促すということが経済の活性化につながる。

○ 星野委員

概念的には、外資が入ってくるノウハウを活用すること自体は、歓迎すべきで、健全な競争環境を整備する方が大事。売上の分配が「過剰に利益として島外に出ている」ということであれば、制度的には是正すべきで、

- ・最低賃金を上げる
- ・観光税を課す

といった、資金を地元で落としてもらうことを制度的に整えることが重要。外からの投資は、ビジネスチャンスがあって初めて行われる。

○ 事務局

競争力がいないために、県産品など県内企業の製品やサービスが移輸入品からとって変われないということに問題点があると認識していて、域内経済循環には、県内企業の競争力を高めるということが重要である。質をよくして、価格を抑える努力、競争力を県内企業が培うように持っていきたいという趣旨なので、表現も検討したい。

2 議題2 KPIについて

○ 末吉委員

シンプルでわかりやすい。いろんな場所で、広く経営者のみんなに知らしめることが大事。月額23万円が相対的貧困の分岐点と知っている経営者は少ない。これを経営者の皆さんに知らしめることが大事。これだったら、自分たちもできる、というふうになると思う。

○ 花牟礼委員

数字に異論はないが、設定するにあたっての根拠裏付けがあった方がいい

県民所得の年間の増加率との比較や、GDPの伸び率、人件費といったものをスライドさせていくと妥当だ、みたいなこともあったほうが納得感がある。

この数字は決して達成困難な数字ではないというイメージを持っており、妥当であると思っている。

→他の委員からは特に意見なし。合意をいただく

3 議題3 各委員へのアンケート回答に関して

○ 末吉委員

観光ダメージで瀕死の重症。得意としている観光を強化することが大事。

沖縄経済再生の近道は、観光を強化しながら、製造業もといっていたが、製造業は現在沖縄にあるものの厳しいのが現状。

観光の年間平準化は大賛成。文化観光や伝統芸能、食を全面に出していく。県内各地域に芸能があるので、単純に、沖縄の強みを強化しようという提案。

製造業については、泡盛の販売力を高めていこうということで、プロジェクトを始動している。三つの蔵から5アイテムを出してもらい販売好調。次は石垣や宮古などの離島の蔵を強化したい。

また、黒糖が余っている。今ある黒糖菓子の販売力を高めるため、県外、海外に輸出する会社をOKIKO とつくる予定。

○ 高岡委員

適正な競争、環境下でのビジネス。沖縄スタンダードを脱することが稼ぐ力につながる。

文化、環境自然など地域資源を見直して強みを価値として市場に出していくことが大切。地域連携型のビジネスを作ることによって新しい市場を作り出す。

域外に出口を求めることが、稼ぐ力を生み出すことになる。

要望として、優良県産品の制度、稼ぐためには、B2C 消費者、B2B では企業のニーズがあることが大事。市場に合わせたマーケティングを稼ぐ力の前提として、優良という定義は消費者側から、県外から見た時の評価も入れていくべき。

○ 星野委員

観光産業の生産性をどう高めるかという点で、単価が下がる原因はKPIの設定であり、入れ込み数を重視しすぎている。自治体も、産業界も、どんな人かを気にしておらず、何人来ただけしか気にしていない。

観光産業における正社員比率を上げれば、ノウハウ、能力もついてくる。自ずとレベルが上がる。

観光におけるKPIを変えていくべきである。沖縄は極端だと感じていて、高級リゾートに3-4泊している人も一人。クルーズでスターバックスに寄っただけの人も一人としている。

10-4月までの長いオフシーズンを高めるために

- ・ビーチリゾートのイメージ訴求をやめる
- ・文化観光
- ・食の魅力

を高めるべき。

観光の質、内容に沖縄全体が地道に取り組んでいくことが必要。

○ 花牟礼委員

- 沖縄は今後、幸福が実感できる島として、幸福度を追求する必要がある。稼ぐ力もここに結びつけなければいけない。
- 幸せが実感できる取り組みは、内的要因を活性化する施策として最低限の収入が大事。決して、高収入である必要はない。最低限の収入がありながら、幸福が実感できる地域であるべき。幸せが実感できるという定性的な意味合いの後押しをすることができれば、数字が低くても納得感が出る。
- 次に、地域に夢を与えるような外的要因を活性化する。経済規模の拡大と一人当たりの給与向上。新たな夢のあるプロジェクト、産業支援、既存産業の競争を活性化するような取り組みを考えている。
- 個別案としては、シングルマザーに対する補助、就業支援、受け入れ、就業規定を柔軟化する企業への支援、子供の自己肯定感を高める活動、観光業界ステータス向上をする取り組み、補助事業を与える条件として、従業員向けに還元する誓約書を書かせるなど。そのほか、ベッドメイクをする方々の収入補助、観光業界の社内スタートアップの支援なども考えられる。
- 別途資料提供のあった体系図をもとに説明

○ 金城委員

貿易、国際金融について

送金ができないなど、アフリカではありえないような相談がある。中間を省略する方が儲かるが、県内メーカーや県内地銀には、貿易の知識、環境が整備されていない。

海外で売れていることすら実感できていない。

沖縄が遅れているということではなく、日本全体が世界のトレンドについていっていない。

ドライポート、インランドポート、国際金融の整備をすすめるなど、貿易を円滑化していくような整備により、沖縄が日本のモデルとなり、ビジネスの優位性が高まる。

今後の方向性においても、貿易や金融について触れられていないが、一度整備して欲しいと思っている。

技術の移転について。世界中には島嶼国があり、ゴミ処理、人口、環境に対する問題があるが、島嶼県である沖縄と同じ課題を抱えている。一つの基準を沖縄で作ることができれば

該当国と調整することでマネタイズできる。（トマス技研を念頭に）島嶼県として基準になる技術を持っている企業に声がけしていく。

○ 比屋根委員（欠席のため、事務局にて説明）

県としてKPI 達成のために共感をいただいている企業への認証制度を創設する。企業のKPI＝県のKPI となるように金融機関と連動するなどのインセンティブを働かせつつ、認証企業を中心とした経営者コミュニティ、表彰制度を設ける。

4 その他

○ 末吉委員長

県のKPI は明確でわかりやすい。県内経営者に理解させる機会を作るべき。

○ 事務局

委員長からも提案があるが、県としても共感いただく機会をたくさん作っていきたい。KPIの達成だけでなく、「観光需要の平準化」や「外貨を稼ぐ」といったテーマにおいても、やはり県が方向性を示すだけでなく、セミナー等の形式でお話をさせていただく形が良いと思っている。

星野委員はじめ、県が主催するセミナー等でお話しいただくなど、委員の皆様にはご協力いただきたい。

○ 各委員

異議なし。